

私は今回の東大見学会企業大学訪問をした中で、特に私が個人的に充実した時間を送れたと思う内容は二つあり、一つはアディーレ法律事務所本社への企業訪問、もう一つは新日鉄住金の訪問であった。

アディーレ法律事務所という名前は、誰もがコマーシャルや広告などで一度は目にしたことがあるだろう。そのようなとても有名な弁護士事務所へ訪問してきた。アディーレ法律事務所のコマーシャルで取り上げられているのは、主に債務整理だが、それだけではなく交通事故被害、離婚相談、刑事弁護、労働トラブル、B型肝炎給付金など幅広い分野の業務を行っている。また、全国に六十四拠点あり、弁護士は百四十人いる。案件数は債務整理で三千件と多いのだが、勤務時間はほかの事務所ほど多くないらしい。私も事前に企業について調べる前は、アディーレ法律事務所については「債務整理で有名なとても大きな法律事務所」「ナイツがコマーシャルに出ている」というような知識しかなかったのだが、訪問によってさまざまなことを知ることができた。

訪問先では岩沙弁護士という労働トラブルを扱っている弁護士に話を伺った。いくつか質問をしたのだが、どの質問にも一つ一つ丁寧に答えてくださった。岩沙弁護士に「弁護士になるために高校のうちからしておくべきことは何か」と聞いたら、「勉強をすることが一番大事である」と言っていた。理由は弁護士になったときに、よい学歴があることによって仕事の多さや質などが左右され、報酬も変わってくるのだそうだ。さらに、仮に良い大学に入ったとしても、好きな学部に入るためには、成績が良くなければならない。私は今まで勉強をあまりしてこなかったが、学歴が就職後に、これほどまでに影響するという話を聞き、これからはしっかりと勉強しようと思つた。また、岩沙弁護士は弁護士になるのに、必要なことが二つあると言っていた。一つはコミュニケーション能力だそうだ。これについては、弁護士という職業は人と会話をする機会が多く、依頼者に信頼を得ることが必要不可欠だ。そのために依頼者の話を聞く力と依頼者に正しく理解してもらい説明する力が要るらしい。二つ目は、几帳面さや正確さ、きめ細かさと言っていた。これは、重要な書面の作成の時には、正確さが何より必要になってくる。なぜなら、裁判所に提出するものであるからだ。そのような書面をミスなく作るには、几帳面さがある。この二つの弁護士に必要な要素は私には足りないものだったため、弁護士を目指す進路の一つにしている私には、重い言葉であった。しかし、このような要素は、心の持ちようで変えることができると思つたから、これからの生活の中で気を付けたいと思つた。次に岩沙弁護士が仕事をしている中での、辛いときと嬉しかった時について聞いた。まず辛いときについては重要な書面の作成の時なのだそうだ。重要な書面の作成は先ほどいったように絶対に間違っはいけないものなので、やはり神経を使うらしい。次に嬉しかったことについてだ。嬉しいときは、事件の依頼を受け持っているときその事件が解決に向かうにつれて、依頼者が徐々に現実を受け入れて、依頼者自身がほっとするときだそうだ。私はそれを聞いて弁護士とは、とても思いやりのある優しい人になるべきなのだと思つた。

質問が終わった後に、事務所の仕事場を見せていただいた。法律事務所の仕事場と聞くと堅苦しく、重たい空気の中で仕事をするイメージを持つのであろうが、そんなことはなかった。広い部屋で生き生きと仕事をする弁護士の方々や事務員の方々を見ると私も将来このような職場で働きたいと思つた。

私は今回の企業訪問によってこれからの高校生活の中での特に勉強へのモチベーションを高めることができたと思ふ。私はアディーレ法律事務所のような企業に就職をできるように勉強や部活を今までより一層頑張っていきたい。

新日鉄住金株式会社の本社ビルは日本の大企業の中核が集まる丸の内に堂々とそびえ立っていた。その新日鉄住金株式会社本社の一室を借りて住金の社員の方々や、以前大企業に勤めていて定年退職した方々の話を聞いた。最初に住金社員の方々から新日鉄住金について紹介していただいた。新日鉄住金は、「素材メーカー」と呼ばれる普段私たちが聞きなれない業種の会社だ。その中でも「鉄鋼メーカー」と呼ばれるもので世界的需要は右肩上がりなのだと言っていた。私は、新日鉄住金の「揺るぎない総合力世界一の鉄鋼メーカー」にするという目標に、感動した。産業の発展を強く願い、世界を見据えるという会社全体の姿勢は、とても壮大であり、これこそが、日本の大企業が目指すべき理想像なのではないかと思う。また、社員の方々は、皆さん頭がよく、日本を代表する企業の社員にふさわしい方々であった。営業の方には豊田佐吉さんの言葉である「百忍千鍛事遂全」という何度も我慢をして努力をすれば、実を結ぶという意味の言葉を送っていただいた。国内法務の方には「頑張ればそこに道は開ける」という言葉、技術職の方には「仲間を大切に」という言葉と「文武一道何かに取り組み極めることが大切」という言葉をそれぞれいただいた。どの言葉の内容にも「努力」という意味が込められていた。新日鉄住金の社員の方々には確かに元々の頭の良さもあるのかもしれないが、それ以上に、努力をしてきたからこそ素晴らしい企業で働くことができているのだと思う。仕事内容の説明が終わった後にグループワークをした。私のグループに前半にはあの有名なブリジストンの元役員でスタッドレスタイヤを使おうと提言した方がいらした。年配の方だけあってスタッドレスタイヤのことだけでなく、会社に入社してからのことやご自身の高校生活のことなどを教えていただいた。後半には元仙台二高生で新日鉄住金の営業をやっている方がいらした。この方には私たちの質問や今後のことについて聞いていただき、それに対してご自身の過去を交えながら質問に答えていただいた。そうすると、意外と大企業に勤めているような人にも私たちと同じような悩みを

持っているということが分かり、とても驚いた。今回のように企業の方と成人前に直接話し合う機会などなかなかないと思う。このような貴重な体験を設けてくださった、先生方、そして私たちの訪問を快く受け入れてくださった企業の方々に感謝したいと思う。

私はこの東大見学会企業大学訪問で自分が今までしたことのない経験をすることで、自分を見つめなおすことができた。私は今まで、将来何をを目指すのか、どのように生きるのか明確な目標などはっきりとは決まっていなくて、その現実から目を背け考えないでいた。例えるなら、夏休みの宿題を「まだ始めなくても間に合う」と思いぎりぎりになってやり始めるといった具合である。しかし、今回の研修でアディーレ法律事務所、新日鉄住金を見学し、どちらの会社の方々も自分の仕事に誇りをもって、意識を高く持って仕事をしているのを見て、私もこのようにならないといけないと思い、すぐにでも進路を決めたくなり考えるようになった。私は今、進路について真剣に考えそして真剣に迷っている。すぐに決めると思ったものの、自分の一生を決めることはそう簡単にできない。だからこそ、今回の研修をきっかけに築けて良かったと思う。真剣に考え、そして大いに悩んで進路を決めたい。